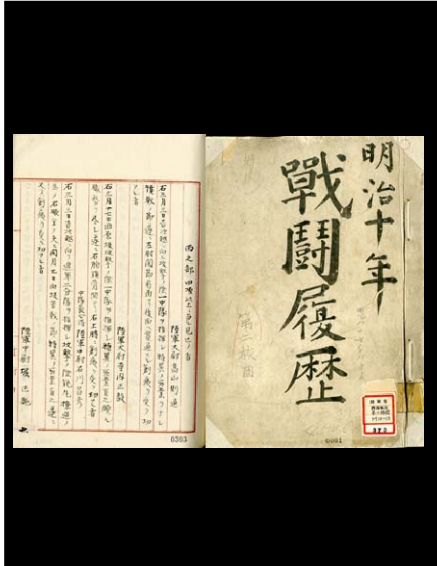


平成 23 年度は、歴代陸海軍大臣の中から毎号一人を取り上げて、図書館史料室が所蔵するその人物の関連史料を紹介しています。

《 <sup>てらうち</sup> 寺内 <sup>まさかた</sup> 正毅 1852～1919年 》

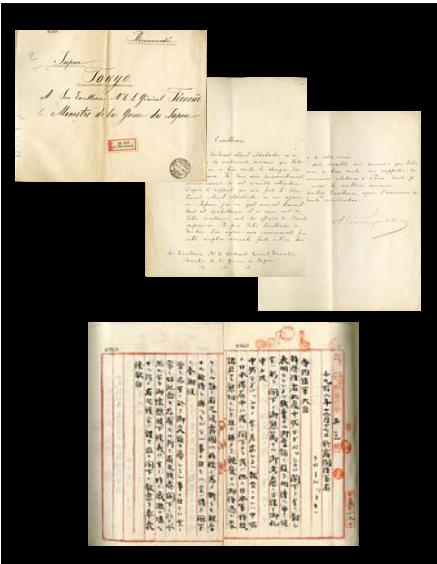
—西南戦争で負傷し、陸軍大臣として日露戦争の勝利に貢献した将軍—



丙之部四項以上ニ当ル見込ノ者

(登録番号：陸軍省—西南戦役第2旅団—M10—13—373)

寺内正毅元帥は、明治3年12月、陸軍軍曹に任ぜられた後、翌4年8月少尉に任官、その後、教育總監、陸軍大臣、朝鮮總督等の要職を歴任しました。この史料は明治10年3月、近衛歩兵第1連隊第1大隊第1中隊長の同元帥（当時大尉）が、西南戦争において負傷した時の戦闘履歴です。「右三月十七日田原坂攻撃ノ際一中隊ヲ指揮シ特異ノ所業有之頗ル職務ヲ尽シ遂ニ右胸鎖骨間ヨリ右上膊ニ創痕ヲ受ケ功アル者」とあります。同元帥はこの時の負傷によって右手の自由を失い、拳手の敬礼も左手で行わなければならない状態となりましたが、引き続き現役に留まり活躍しました。



露国陸軍大臣 寺内大臣へ挨拶状の件

(登録番号：陸軍省—密大日記—M36—1—3)

寺内元帥は明治35年3月、陸軍大臣に就任しました。この史料はロシア陸軍大臣クロパトキン大将から同元帥（当時大将）宛てに届いた1902（明治35）年12月17日付の書簡です。訪日したロシア軍将校の接遇について「報告ニヨレハ．．．閣下ヨリ或ハ他ノ日本軍将校諸君ヨリ懇切ニシテ且ツ極メテ信愛ナル御待遇ヲ蒙リタル趣ニ有之候．．．余ハ謹テ閣下ニ奉謝候」（日本側翻訳文）と感謝が述べられています。クロパトキン大将とは同元帥がフランス公使館附武官として勤務していた頃からの知己でした。しかし、この書簡が書かれた約1年後には互いに日露戦争を戦うこととなりました。

《お知らせ》

史料保存のためのマイクロ撮影にともない一時的に閲覧できない史料があります。

詳しくは、防研ウェブサイト「お知らせ」をご覧ください。

※ 記事に関する御意見、御質問等は下記へお寄せ下さい。なお、記事の無断引用はお断りします。  
防衛研究所企画室  
専用線：8-67-6522、6588 外線：03-3713-5912  
FAX：03-3713-6149 E-mail：nidsnews@nids.go.jp  
※ 防衛研究所ウェブサイト：http://www.nids.go.jp